

各 位

平成 15 年 9 月 25 日

株式会社 イーエムシステムズ
代表取締役社長 國光 浩三
(コード番号 4820 東証 第二部)
問合わせ先 取締役管理本部長 田中 英次
T E L (0 6) 6 3 9 7 - 1 8 8 8

業績予想 (単体・連結) の修正について

最近の業績の動向を踏まえ、平成 15 年 5 月 20 日の決算発表時に公表した平成 16 年 3 月期 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日) の中間業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 16 年 3 月期 中間単体業績予想数値の修正 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	3,333	268	150
今回修正予想 (B)	2,941	90	50
増減額 (B - A)	392	177	99
増減率 (%)	11.8%	66.2%	66.2%
(ご参考) 前期 (平成 15 年 3 月期中間) 実績	2,916	282	157

2. 平成 16 年 3 月期 中間連結業績予想数値の修正 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	4,074	290	162
今回修正予想 (B)	3,712	108	59
増減額 (B - A)	361	182	103
増減率 (%)	8.9%	62.8%	63.6%
(ご参考) 前期 (平成 15 年 3 月期中間) 実績	3,544	290	163

3. 修正理由

調剤薬局事業の売上高に関しましては、堅調に推移しております。しかしながら、調剤薬局業界に関しましては、平成 14、15 年における医療保険制度改正の影響による来局患者数の減少等が調剤薬局の経営を圧迫し、業界全体として設備投資意欲の萎縮が見込み案件数の減少となって表れました。さらに、下半期には当社新製品の投入の予定があるために 8、9 月の案件の中には買い控えによって下半期へのずれこむ案件が発生し、またその買い控えを防ぐために商品単価を下げた販売促進も行ってまいりました。これらの要因が売上高の減少につながりました。ただし販売促進によって値下販売した顧客につきましては、下半期に新製品リリース後、有償アップグレードの需要となります。

一方当社では、調剤薬局の経営環境が厳しくなる中で調剤薬局間の差別化が必要と考え、需要が大きく期待出来るオプションの投入をいたしました。調剤薬局情報共有化システム「NET - 」に関しては、予想を上回る

需要に対して機能増強並びに設備増強が必要となり出荷を一時停止したために、第1四半期売上の予定から第2四半期以降の売上へずれ込みが発生したこと、小規模薬局向けに投入した省スペース薬袋発行プリンタ「MP-7」に関しては、初期ロットに微調整が必要であったため、市場への浸透が遅れたことも売上高減少の要因となりました。

これにより、調剤薬局向けシステム事業及びその他関連事業におきましては、売上高が当初予想より下回る見込みとなりました。

経常利益並びに中間純利益につきましても、上記要因により予想を下回る見込みとなりました。

よって、単体決算の中間業績予想の修正に伴い、連結決算の中間業績予想を修正いたします。

単体並びに連結決算の通期見通しにつきましては、前述の有償アップグレードの下半期での需要並びに大型調剤薬局チェーン店での「NET-」の導入並びに大型調剤薬局チェーンのリプレースなどが見込まれることから現時点では通期見通しの変更はありません。

また、1株当たりの配当予想につきましても、現時点では修正の予定はありません。

(注)本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以上